

# 1. ボランティアコーディネーション事業 （大阪市委託事業）

「ボランティア活動をしたい」という人に活動の場などを紹介するとともに、「ボランティアの応援がほしい」という要請に依頼者と共に問題解決に当たるのがボランティアコーディネーション事業である。

事業は、ボランティアコーディネーターが直接対面に対応するとともに、インターネットなどのメディアによる施設・団体のボランティア募集情報提供事業と連動して、ボランティアに協働を求める人や組織と社会参加の意欲をもつ市民とのコーディネーションも進めている。

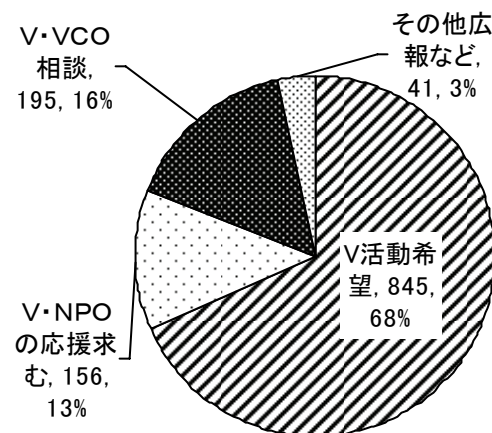
2009年度は、市民エンパワメントセンター部門で、のべ1, 237件の相談に対応した。

2009年度に、市民エンパワメントセンター部門で対応した総相談件数は1, 237件であった（電子・紙媒体等メディアを活用したボランティアコーディネーションを除く）。

このうち「ボランティア活動希望者（自主プログラムおよび他組織との協働によるプログラム参加者475人を含む）」は845件、「ボランティア・NPOの応援を求む」は156件、「ボランティアコーディネーションにかかわる相談、照会」が195件、「その他広報など」が41件となっている。（直接コーディネーターを介した相談件数の合計は762件、総括報告11ページ参照）

なお、2009年度に一般対象のボランティアコーディネーションと障害者対象のボランティアコーディネーションの統計方法の統一を行ったことにより、これまで実績を示していなかった障害者ボランティアコーディネーションに関わる受付件数や調整回数、対応時間なども明確に示せるようになった。

図1-1 相談内容の内訳



## 1. コーディネーターが相談・調整、プログラム開発につなげるボランティアコーディネーション

### （1）「応援を求める」相談への対応

#### A. コーディネーターを介した調整件数の分析

2009年度に受け付けたボランティアの「応援を求める」相談は、156件であった（表1-1）。昨年度と統計の取り方が異なるため単純比較はできないが、様々なニーズを抱えた相談者からの依頼は昨年度と

ほぼ同数である（北区対応を除いて昨年度153件）。受付方法は、電話73件、対面32件、Eメール5件、協力関係にあるおおさか行動する障害者応援センター経由で依頼要請を受けたケースが46件あった。

「応援を求める」依頼への対応は様々である。多くの場合、相談課題に関して専門性を持った市民活動団体が存在するため、ニーズを聞き取った上でできるだけ最適な団体を紹介している（「他団体を紹介：27%」）。「協会事業につなぐ」とは、団体等からボランティア募集依頼があった場合、KVネットや他広報媒体を紹介した対応数を示した。協会が運営するツールを使って各団体がボランティアを募集する手伝いをしている（「協会事業につなぐ：21%」）。

相談1件にかかる対応時間は長い順に、「協会事業につなぐ」＝28分、「他団体・機関を紹介」＝23分、「他、悩みを傾聴するなど」＝22分、「制度等を紹介」＝15分である（表1-2）。どのような相談であっても、「ボランティアの援助が必要かどうか」「どの面で援助すべきか」などを判断するために、本人を取り巻く状況や相談者の真意を受けとめる必要がある。特に複数の課題が絡み合っている場合、相談内容の課題整理から行う必要がある。このように時間をかけてやり取りを繰り返すことで、課題解決と相談者のエンパワメントにつながるケースもある。

表1-1 「応援を求む」相談の合計件数

受付件数	調整回数	対応時間
156	830	8,053

【うち障害者Vコーディネーション】

87	407	4,080
----	-----	-------

表1-2 コーディネーターを介した相談のうち「ケース受理」以外の相談件数

	協会事業につなぐ (KVネットを含む)			制度等を紹介			他団体・機関を紹介			他・悩みを傾聴するなど		
	受付 件数	調整 回数	対応 時間	受付 件数	調整 回数	対応 時間	受付 件数	調整 回数	対応 時間	受付 件数	調整 回数	対応 時間
受理数	33	76	931	7	12	105	42	60	1,007	10	17	225

【うち障害者ボランティアコーディネーション】

12	43	510	1	2	10	16	26	390	2	7	100
----	----	-----	---	---	----	----	----	-----	---	---	-----

ケースとして受理した相談は64件であった（表1-3）。ケースとして受理した上でボランティアをつないだものは障害者からの依頼が87%を占める。

表1-3 ケースとして受理した相談件数

受付件数	調整回数	対応時間
64	665	5,785

【うち障害者Vコーディネーション】

56	387	3,350
----	-----	-------

依頼内容の詳細は後述するが、大きくイベントなどの「単発・行事援助」依頼と、生活支援や外出支援などの「継続・日常援助」に分かれる（表1-4）。ケースを受理した場合、ボランティアを見つけるまで複数回の調整をするため、1件のケースに平均10回、90分の調整時間をかけている。「単発・行事援助」では施設・団体での運動会やお祭りでのボランティア募集、「継続・日常援助」では買い物、病院などへの付き添いボランティアの募集が多かった。イベントボランティアの場合、一つの行事に複数のボランティアを紹介するケースもある。今年度は継続ケースに対する調整回数がやや増加している。

表1-4 調整件数の内訳（単発行事、継続日常）

	単発・ 行事援助	継続・ 日常援助	合計
受付件数	37	27	64
調整回数	177	488	665
紹介V数	67	52	119

【うち障害者Vコーディネーション】

受付件数	12	20	32
------	----	----	----

また、ケースとして受理した相談では本人の状況や活動内容を確認するため、コーディネーターが家庭訪問や関係機関への訪問を行っている。紹介するボランティアが決まった後も引き合わせや活動条件の調整のためボランティアに同行、同じケースでも検討が必要なことが出てきた時に、その都度家庭訪問を行っている。

【家庭訪問の回数合計：21回（前年より1回減少、大阪市内9回、大阪府内12回）】

## B. 依頼者の所属

依頼者の所属を図1-2～5に示す。依頼者のうち、個人からの依頼は約75%（117件）、施設や団体の依頼が約25%（39件）であった。割合は昨年度とほぼ同程度だが、個人の依頼が増えている。大阪市在住者は全体の半数以上を占める（在勤・在学者を合わせると約60%）。また団体の大半は、NPO法人と任意団体である。

図1-2 依頼者の属性

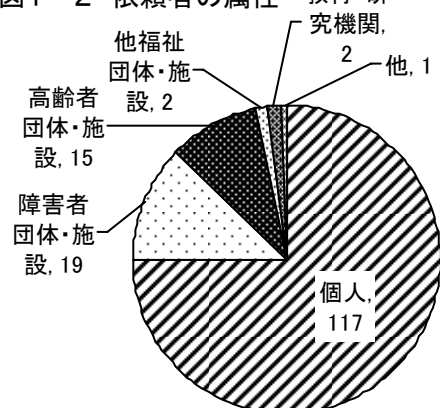


図1-3 団体の種別

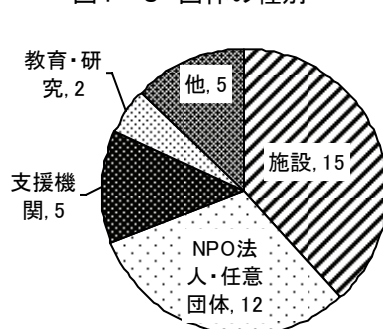
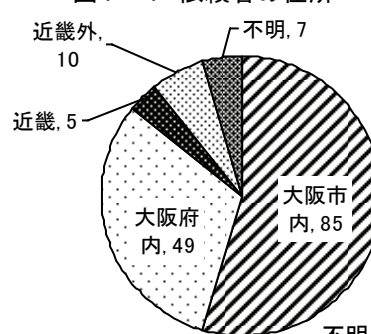
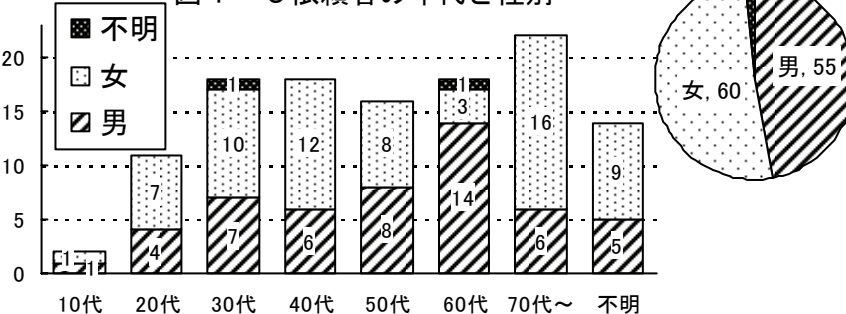


図1-4 依頼者の住所



応援依頼者の年代別では、70代が一番多い（図1-5）。20代から70代まで幅広く依頼を受けているが、特に60代は男性の割合が多くなっている。30代、40代、70代は、女性の依頼が多い。男女比はほぼ同数になっている。

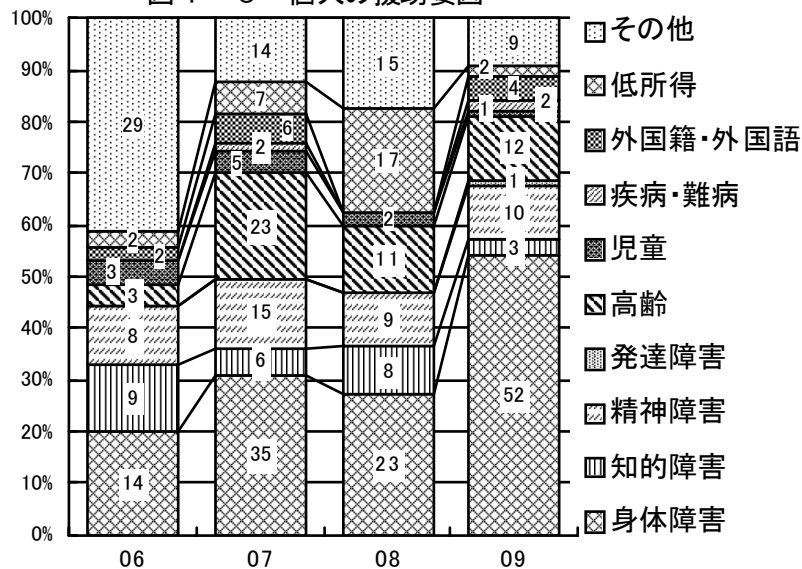
図1-5 依頼者の年代と性別



## C. 相談内容の分野

図1-6に依頼者の援助要因を示す。身体障害に起因する援助要請件数は全体の44%（52件）と最も多く、高齢に起因する要請が10%（12件）と続く。依頼者の多くは、身体障害と知的障害、高齢と低所得など複数の課題を抱えている場合が多いため、援助の主要因を特定するため、面談やケース検討を重ねている。

図1-6 個人の援助要因



個人の援助要因は、障害者のボランティアコーディネーションと統合したため、障害関連の援助要因の件数が増加している。特に身体障害が要因となるケースが多く、ある程度助成制度は整備されたとはいえ、いまだ応援依頼が多くなっている。

また、依頼内容で最も多い外出支援の「イベント」には、買物や映画鑑賞、スポーツ観戦など一日で終える余暇活動を含んでいる。このことから、家事援助や身体介護などの生活支援ではなく、むしろ社会参加への意欲が高まり、依頼が増えていると考えられる。

表 1-5 依頼内容（合計 64 件）

友愛活動	話し相手	4	生活支援	家事援助(掃除、洗濯、調理など)	2
	遊び相手	1		身体介護(トイレ、着替え、食事、入浴等)	1
	保育	0		その他(代筆、代読など)	5
	付き添い	5	技能提供	手話通訳・要約筆記	3
	メンタルヘルス	0		手引き	0
外出支援	通学	1	他	点訳・朗読	2
	通院	1		通訳	2
	旅行	8		学習支援	0
	イベント	24		専門性(吸引など)	2
	その他	3			0

D. 相談内容の事例や対応結果

コーディネーターが介在する応援相談ケースでは、「ボランティア援助の必要性」をしっかりと確認しながら、様々なコーディネーションや相談活動を行っている。相談集計の数値だけでは見えてこない様々な課題の側面を浮き彫りにするため、プライバシー保護を前提としながら、特徴的なものをモデル化して紹介する。

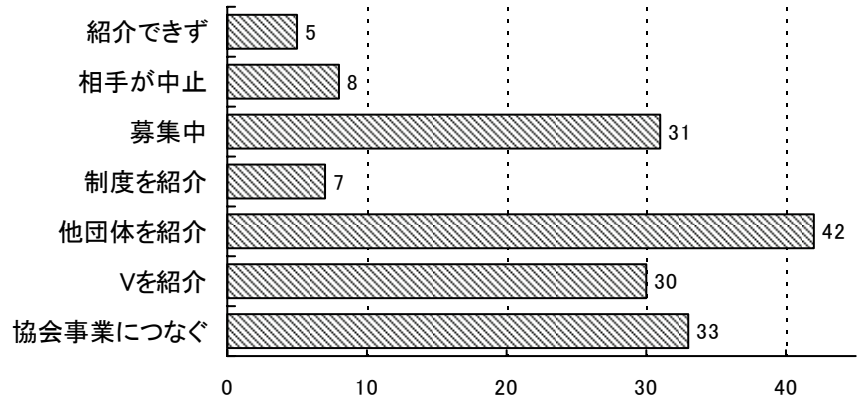
◎「ケースとして受理」した相談およびコーディネーターが対応した具体的な相談内容

	相談内容・ニーズ	対応プロセスと結果
①	身体障害の女性。プールに通うための着替えのボランティアを希望。	本人とケースワーカーと対面し制度についての説明を行い、本人が介助を必要だということをしっかりと担当者に伝えるように話した結果、制度内で利用できることとなった。
②	身体障害の車いす利用の大学生の女性。合同企業説明会や英会話の勉強に行きたいが、友だちに頼むのは気を使いボランティアをお願いしたい。	一番いいのは同じ大学の友だちに頼むというのではなく一緒に行動できるようにしましょうと話をし、本人からの連絡を待つ。
③	施設入居者。車いす利用の男性。大阪に住民票がないため外出の制度を利用できない。	本人には外出したい気持ちがあるが、どうすればいいのかわからない。施設の職員も外に出られるようにしたいと思っているが、業務に手がいっぱい、そこまで支援できない。ボランティアを募集することとなった。
④	精神障害のある 20 代女性。岡山に住んでいるが、大阪で開催されるコンサートに行きたい。一人では不安なので付き添ってもらえるボランティアを探してほしい。	依頼者の意向を聞き、一緒にコンサートを楽しめる同年代のボランティアを募集。見つかるが、依頼者が体調を崩したためコンサートは断念。来年を楽しみにしていると後日連絡があった。
⑤	LGBT（レズ、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーなど性的マイノリティ）が集まるイベントで、聴覚障害者が参加する可能性があるため、手話通訳をお願いしたい。	イベントの趣旨を説明し、協会とつながりのある手話通訳の団体に依頼、ボランティアをつないだ。
⑥	中高生向け職業体験プログラム事業を行っている団体からの依頼。盲学校の生徒が体験にるので、ラジオのDJのシナリオを点訳してほしい。	日程が迫っているため普段お願いしている点訳グループは間に合わないとのこと。施設に比較的近い西宮VCに相談。VC近くの中央公民館で活動している点訳グループを紹介してもらい、連絡。引き受けてもらえることになった。

図 1-7 は「応援を求む」156 件の依頼相談に対する対応結果である。専門性を持った「NPO や社協などの支援機関を紹介した」件数は 42 件（27%）でもっとも多く、その次に「協会事業につなぐ」が 33 件（21%）、「ボランティアを紹介した」件数が 30 件（19%）と続く。（30 件の内訳には、単発のイベントでのボランティア募集や個人からの依頼のうち 1 回で完了する相談も含んでいる）。「募集中・調整中」の相談には、単発型の依頼と継続型の依頼の両方が含まれる。ケースとして受理したが、依頼者が「中止を申し出てきたもの」も 8 件あった。

図1-7 「応援を求む」相談対応結果割合

- ・協会事業につなぐ ..... 33件
- ・ボランティアを紹介（完了） ..... 30件
- ・NPOやVGなど他団体を紹介 ..... 42件
- ・制度を紹介 ..... 7件
- ・募集中・調整中 ..... 31件
- ・依頼者が中止を申し出たもの ..... 8件
- ・紹介、調整できなかったもの ..... 5件



## （2）「ボランティア活動への参加希望」への対応

### A. 「ボランティア活動に参加したい」相談からの調整の状況

#### ①. 相談対応の概要

活動希望者の相談は合計で370件を受け付けた（統計の取り方を変更したことに伴い単純比較が難しいが、北区対応を除く2008年度の受付件数は275件）。相談1件に対し約1.6回の調整対応をしたことになる（表1-6）。

370件のうち、直接コーディネーターが対面し相談に応じた件数は185件で全体のおよそ50%。面談の場合、1回あたりの時間は平均70分である。ファーストコンタクトの多くがメールか電話の場合、比較的短時間になるが、来協面談の場合、面談にかかる時間はこれより長くなる（表1-7）。

表1-8は、主に協会が応援依頼を受理したケースにボランティア活動者をつないだ件数である。87件のうち69件は、協力関係にある「おおさか行動する障害者応援センター」を通じて北区事務所で対応したものだ。

また近年の傾向として電子メールで相談を寄せる人が多くなっている（表1-9）。可能な限り来所の上での面談を勧めているが、場合によっては面談せずに活動先などを紹介することもある。ただし、北区事務所での対応は、登録された応援会員をつなぐことが中心であるため、依頼紹介ごとに面談するケースはない（面談なしの場合、対応時間は1件あたり約13分）。

ボランティアコーディネーターが対応しても、すべての活動希望者に活動先を紹介できるわけではない。活動紹介が適切でないと判断した場合、あるいはファーストコンタクトで面談を提案したが相談者から連絡や反応がない場合など、紹介できずに相談が終了する場合もある（表1-10）。

#### ② 活動希望者の傾向

活動希望者の割合は、これまでの傾向と同様で、女性が男性よりも多いが、その差はわずかである。（図1-8。次ページ）。また、活動希望者のうち半数以上は勤労者であった。この割合は08年度（41%）と比較して増えている。大学生・専門学校生の割合もおよそ17%とやや増加している。（08年度13%）

表1-6 「活動希望者」相談の全体件数

受付件数	調整回数	対応時間
370	614	15,497
【うち障害者Vコーディネーション】		
119	234	3,880

表1-7 面談し活動先を紹介できたもの

受付件数	調整回数	対応時間
185	304	13,035
【うち障害者Vコーディネーション】		
47	91	3,080

表1-8 希望者をケースにつないだもの

受付件数	調整回数	対応時間
87	180	1,165
【うち障害者Vコーディネーション】		
69	114	785

表1-9 電話・メールなど面談以外の方法で対応し、活動先を紹介できたもの

受付件数	調整回数	対応時間
150	261	1,957
【うち障害者Vコーディネーション】		
71	140	780

表1-10 紹介できなかった、もしくはしなかったもの

受付件数	調整回数	対応時間
20	27	330
【うち障害者Vコーディネーション】		
1	3	20

図1-8 活動希望者の内訳（年代、男女別）

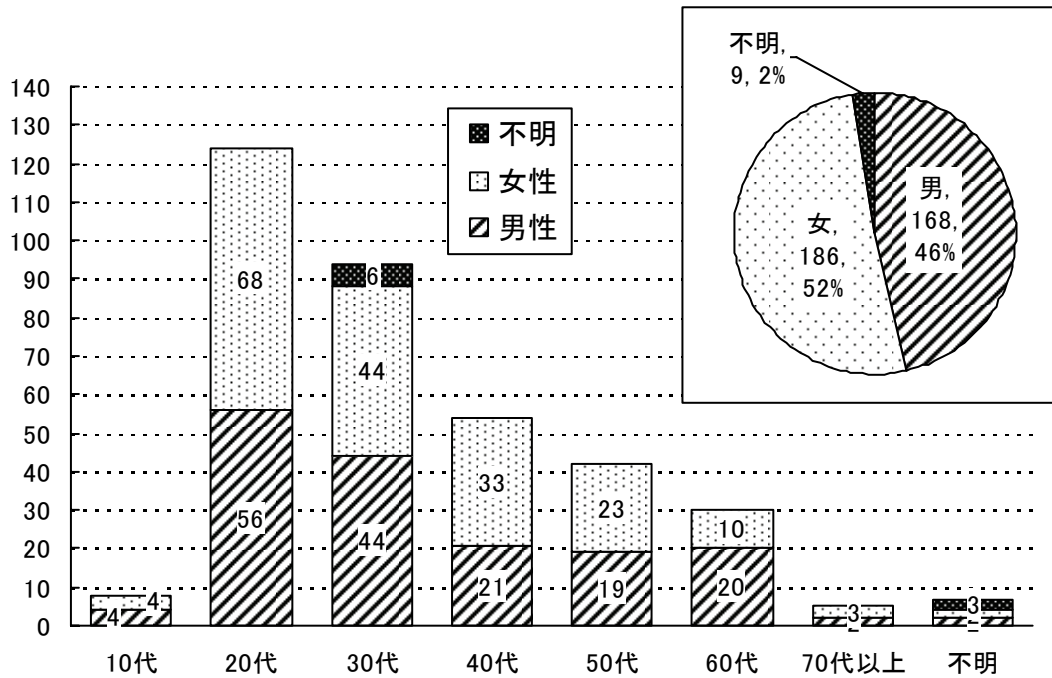
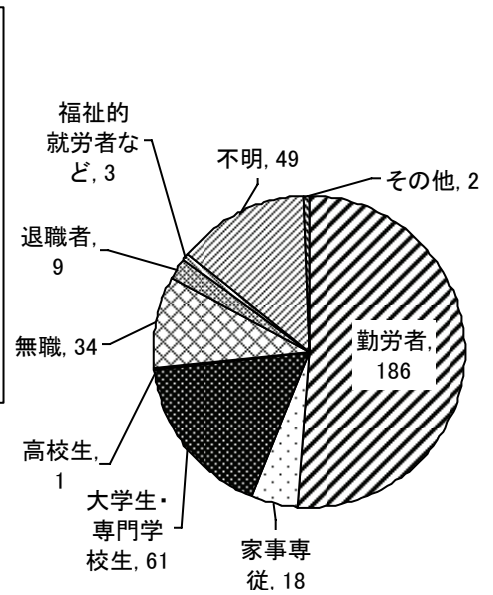


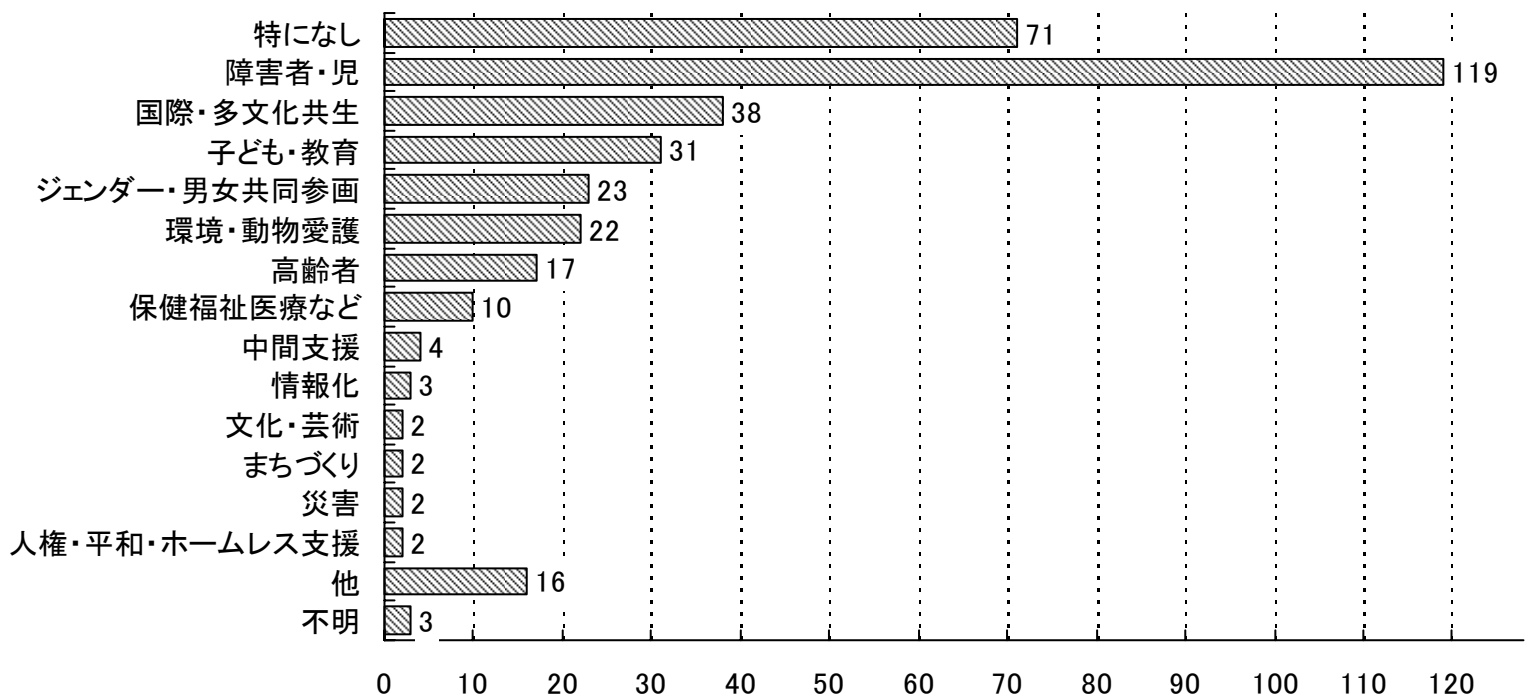
図1-9 活動希望者の内訳（属性）



B. 希望する活動内容

活動希望分野では、障害者・児の分野が最も多かったが、2008年度に続いて2009年度も環境・動物愛護の活動などへの関心が高かった。また、分野横断的な活動への関心も増えている。

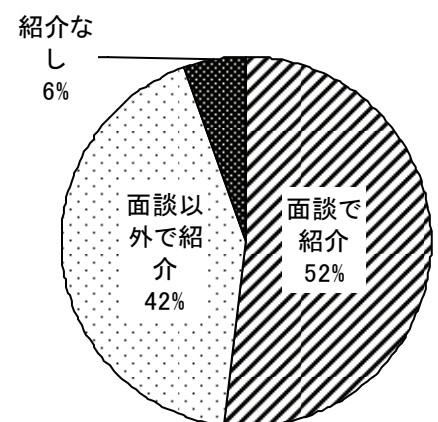
図1-10 希望する分野



C. 対応の結果

図1-11は、上記の表1-8～10の割合をグラフで示したものだ。約94%の相談件数に対しなんらかの活動を紹介することができた。

図1-11 対応の結果



D. ボランティア保険の受付

ボランティア活動中の事故に備えるため賠償責任保険と傷害保険をセットにした保険制度が整備されている。

2009年度は「ボランティア保険」956人(前年1,036人)、「行事保険」18件の660人(同22件)、「非営利・有償活動団体保険」11人(同27人)を、協会が取り次いだ。

### （3）参加促進のためのボランティアプログラム提供による コーディネーション対応

#### A. 協会の自主的なプログラム参加（勤労者ボランティア活動促進事業、協会スタッフ募集など）

ボランティア運営で各種事業を展開している協会では、独自のプログラムや事業運営自体にボランティア参加希望者をつないでいることも多数あり、協会という中間支援機関の運営を下支えする担い手として大きな貢献をしているものである。

表1-11 協会自主プログラムへのボランティア参加

提供プログラム数	プログラム新規参加人数
45	231人

#### ■プログラム1

これからボランティアを始めようと考えている人を対象とした定期的集合オリエンテーション「はじめてのボランティア説明会」および、分野やテーマを特定したテーマ別「はじめてのボランティア説明会」を開催。

##### ◎「はじめてのボランティア説明会」

・開催回数：28回 ・参加者：99人

##### ◎テーマ別「はじめてのボランティア説明会」

・講師：森林ボランティア竹取物語の会、天満天神の会、おおさか行動する障害者応援センター、プール・ボランティア、関西NGO協議会、にほんごサポートひまわり会 各団体のメンバー

・開催回数：6回 ・参加者：27人

#### ■プログラム2

後述の「勤労者のボランティア活動促進事業（ボランティアスタイル）」の一環として、“週末3時間でできるボランティア活動”をパートナー団体5団体とともにプログラム開発し、パイロット的に実施した。全7種類9プログラムにのべ73人が参加した。

表1-12 勤労者のボランティア活動促進事業（ボランティアスタイル）への参加 ※プログラム開発順に掲載

パートナー団体	プログラム名	開催日	参加数
特活) おおさか行動する 障害者応援センター	障害者と暑気払いボランティア～車いすで入れる バリアフリーなお店で食事を楽しもう	7月31日(金)夜	11人
	カラオケコミュニケーションボランティア ～障害者と一緒にカラオケを楽しもう	2月21日(日)昼	12人
野宿者ネットワーク	夜まわりボランティア ～夜まわりしながら、野宿者問題を考えよう	9月26日(土)夜	9人
		12月26日(土)夜	13人
		2月13日(土)夜	10人
特活) いくの市民活動支 援センター	雑貨屋さん(フェアトレード商品)の一日店長ボラ ンティア	2月7日(日)朝	7人
中之島公園猫対策協議会	中之島公園猫保護活動ボランティア	2月13日(土)朝	5人
特活) フェリスモンテ	あさひあったかきちで茶道教室ボランティア	3月6日(土)朝	3人
	あさひあったかきちで健康麻雀ボランティア	3月7日(日)朝	3人

#### ■プログラム3

協会でも活動するボランティアスタッフを募集するため、NPOのボランティア活動推進事業チームを中心に協会でのボランティア受け入れプログラムを整備。各チームに呼びかけ4つの活動メニューをまとめた。

・2009年度新規参加人数：32人

#### B. 他組織との協働によるプログラム参加（ろうきんパートナーシップ制度、関西大学からの受託）

企業など他組織と協働して実施しているプログラムにボランティア参加希望者をつないでいる。

#### ■近畿労働金庫と共催で、ボランティアをNPOにマッチング

近畿労働金庫と協力して、勤労者やシニア層を市民活動の現場につなげるプログラム「2009年度近畿労金NP

「パートナーシップ制度」を実施。「大阪NPOプラザ」（8/8）、「みのお市民活動センター」（8/9）、「ラポールひらかた」（8/22）の3か所で、ボランティアセミナー開催。箕面と枚方では地元の支援センターとの共催で実施し、合計22名の参加を得た。ボランティア受け入れを申し出たNPO17団体のうち5団体に、主にシニア層の活動希望者9人（前年同期10人）をマッチングした。

表1-13 近畿労金NPOパートナーシップ制度へのボランティア参加

プログラム数	参加人数	受入れNPO（つないだ人数）
17	9	路交館 東淡路子ども館／高齢者外出介助の会（1）／関西こども文化協会／視覚障害者支援の会クローバー／あそびりクラブ／箕面の山パトロール隊／みのお川を美しくする会／寝屋川市民たすけあいの会／のあつく自然学校（1）／車椅子レクダンス普及会「矢車草の会」／森林ボランティア竹取物語の会（3）／おおさか音楽療法桜（2）／みんなでつくる学校とれぶりんか（2）／YBC（笑）一スポーツ応援クラブ／北河内ボランティアセンター／八尾ダウン症児親の会あじさいの会／ワークレッシュ

#### ■企業の社員研修として、「ボランティア体験研修」をコーディネート

社員研修として次の企業から、企画を受託。訪問先コーディネート、プログラム設計、当日の運営を担当した。

表1-14 企業から依頼を受けて実施した社員研修としての「ボランティア体験研修」

プログラム数	参加人数	依頼企業
9	226	ビズキューブ・コンサルティング株式会社／オムロン株式会社大阪事業所／新生フィナンシャル／シャープ（株）／JAL ナビア大阪

#### ■関西大学「ボランティア実習」への協力

関西大学から依頼を受け、NPOでボランティアしたい学生を団体につなぐためのプログラムづくりに協力をした。受け入れ先NPOの開拓、提供プログラムづくり、紹介などを行った。

表1-15 関西大学から依頼を受けてつないだプログラム数および参加人数

プログラム数	参加人数	受入れNPO
9	9	猪名川町立楊津小学校／かめのすけ（1）／現代手織研究所 SAORI hands（1）／国際子ども権利センター（2）／さくらネット／にほんごサポートひまわり会（3）／のあつく自然学校／プラス・アーツ（2）／もうひとつの旅クラブ

## （4）ボランティア活動推進等の一般相談・照会への対応

協会では、「応援を求める」「ボランティア活動希望」の相談以外にも、ボランティアコーディネーションに関する相談に対応している。相談内容はその時々の方勢を映し出すものが多い。以下に具体的な相談内容を示す。

表1-16 ボランティア活動推進等の一般相談・照会

年度	受付相談数	電話・面談等調整回数
2009	195	320
2008	204	328
2007	192	306

#### ◎ボランティア活動推進に係る相談内容

	相談内容・ニーズ	対応プロセスと結果
①	ボランティアに参加すると「参加証明書」を発行してもらえるような活動があると聞いたが、そのような活動があるのか。	調べてみるが仕組みを作っている支援センターや団体はなかった。受け入れ団体が希望があれば発行している場合があることを説明。
②	病院でのボランティア受け入れを検討している。何からはじめていいのかわからないので教えてほしい。	ボランティアにどんなことお願いしたいかを聞き、受け入れるにあたって検討すべきポイントを伝える。
③	外国人の親のための子育てサロン開催についてアドバイスがほしい。必要な人に届くような広報の方法について教えてほしい。	やさしい日本語と英語を使ったチラシを作成するなどアドバイス。ボランティアの巻き込みについて一緒に考える。
④	「ボランティア相談」の現場についての取材依頼。	現状を話すなど取材に応じる。

⑤	カナダより日本へ留学中。時間があるので子どもたちと関わるボランティアがしたい。日本語はまだあまり話せない。	英語を話せるスタッフがいる子どもたちが通う施設につなぐ。熱心に通い、子どもたちに簡単英語を教えたり、言葉でのコミュニケーションが必要ないスポーツをするなど、人気者になった。
⑥	高齢者を支援する活動や、商店街の活性化、地域活性化に関心がある。働いているので夜や土日に活動できる場所はあるか？	商店街で高齢者の外出介助やサロン活動をしている団体につなぐ。もともと商店街の活性化や地域活性化に関心があったとのこと。サロンやまち歩きのボランティアを通して、様々な人や団体と出会い、地元に戻ってもやってみたいという思いが高まった。

## 2. 電子・紙媒体など、メディアを活用したボランティアコーディネーション

協会では、インターネットなどの電子媒体を活用したコーディネーションシステムや情報発信を積極的に行っている。以下、それらの詳細を紹介する。

### （1）インターネット検索システム（KVネット）によるボランティア活動情報の提供

（KVネット協賛団体および大阪府共同募金会助成事業）

協会では、インターネットなどの電子媒体を活用したコーディネーションのシステム「KVネット」の充実を進めている。運営にあたっては企業や団体の協賛を得て行っている。（2009年度協賛企業および団体：近畿労働金庫、読売新聞わいず倶楽部、大阪市職労働組合、毎日新聞、住友ゴム工業株式会社）

2009年度は、活動情報752件（昨年同期実績743件）、団体情報1,452件（同1,480件）を掲載。年間アクセス数は、掲載情報メンテナンスを行った2008年度より減少傾向だが、月平均約1,900アクセスを保っている。国際分野や環境分野など、多様な分野の登録が増えたことで掲載情報内容の充実を図ることができた。2009年度から2010年度にかけて、利用者にとってより使いやすい検索システムにするため、システム改良の検討を進めている。

また2009年度は、協会のホームページリニューアルと合わせ、KVネットのデザインとロゴの変更を行い検索画面への入口をわかりやすくした。また、KVネット新規登録団体の募集や登録団体への情報掲載の呼びかけは継続して行っている。掲載希望の情報の分野は福祉分野が多く、障害・子ども、青少年、高齢者で全体の63%を占める。最近では、日本語サポートボランティア募集や医療ボランティア講座の案内など多文化共生の分野に係る情報、環境イベント、野宿生活者支援の活動情報など様々な分野の情報が寄せられる。

表1-17 KVネットによる情報掲載数

年度	応援を求む		V活動をしたい	備考
	団体情報数	情報件数	年間アクセス数	
2009	1,452	752	23,202	ロゴとヘッダーのデザイン修正を行った
2008	1,480	743	26,237	掲載情報のメンテナンスを行った
2007	1,476	958	18,934	

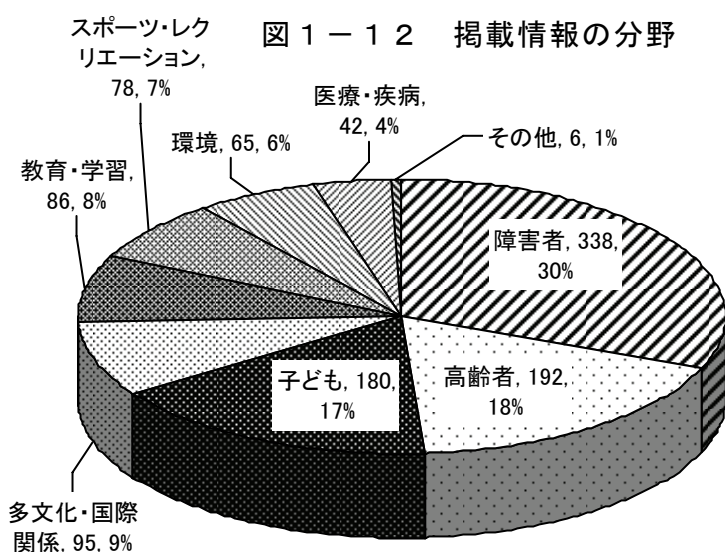
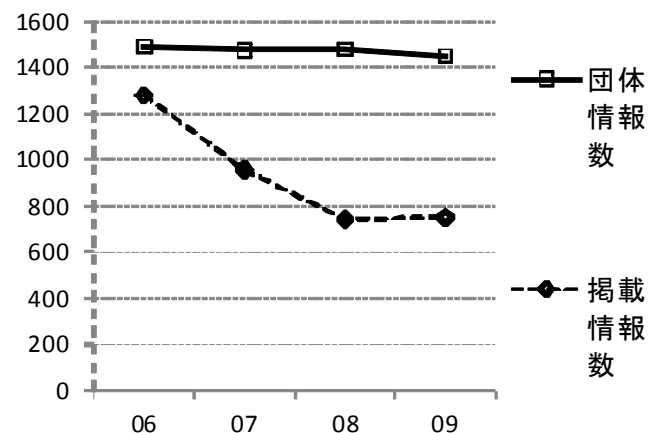


図1-13 KVネット団体情報数等の推移





掲載情報の分野は福祉分野が多く、障害、子ども、高齢者で全体の65%を占める。また、多くの情報は複数の分野にまたがって活動しているため、情報件数の実数より、「掲載情報の分野」（図1-13）の数の方が多くなっている。最近では、日本語サポートボランティア募集や医療ボランティア講座の案内など多文化共生の分野に係る情報、環境イベント、野宿生活者支援の活動情報など様々な分野の情報が寄せられる。

## （2）メールマガジン、ブログによるボランティア活動情報の提供

メールマガジン『関西人のためのボランティア活動情報』を毎週1回、3件程度発行している。メールマガジンのメリットをいかし、鮮度の高い情報をスピーディに発信している。このメールマガジンで情報を掲載してほしいという依頼も寄せられている。また、メールマガジンのバックナンバーをブログ形式で発信している。近年、必要な情報を自ら探す個人が増えているためか、ブログへのアクセス数が大きく増加している。

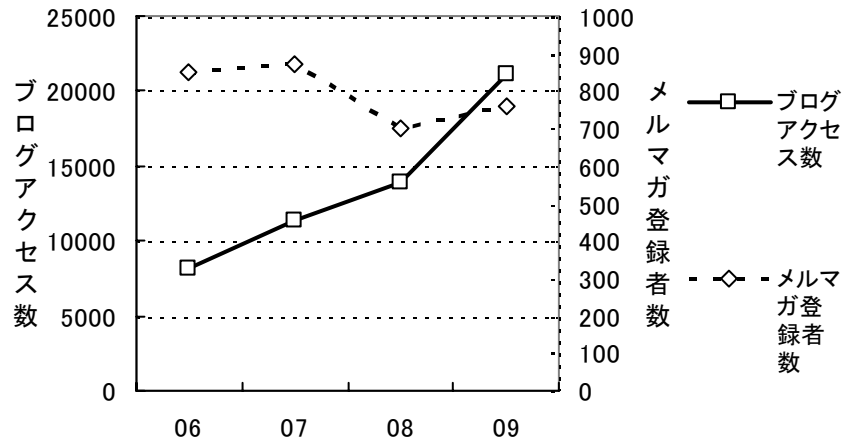
表1-18 メールマガジンおよびブログによるボランティア情報の提供

	掲載情報数	発行(掲載)回数	メルマガ登録者数
2009年度	153	51	758
2008年度	118	40	703
2007年度	149	52	870

表1-19 ブログアクセス数の推移

	ブログ年間アクセス数
2009年度	21,174
2008年度	13,916
2007年度	11,339

図1-14 ブログアクセス数とメルマガ登録者数の推移



## （3）情報加工などによるボランティア活動情報の提供

毎日新聞、サンケイリビング（月1回）、読売新聞わいず倶楽部、大阪市職員労働組合の機関紙（月2回）に、それぞれの発行者、読者・視聴者層に応じたボランティア情報を提供している。他に市民活動総合情報誌『Volo（ウォロ）』発行にあわせて「市民のためのインフォメーション」を作成してボランティア情報を発信した。また、2009年8月より、住友ゴム工業株式会社の社員向けに月5件、ボランティア情報を提供している。

表1-20 市民のためのインフォメーション、大阪市職労、企業向けボランティア情報の提供

	市民のためのインフォメーション	大阪市職員労働組合	住友ゴム工業
情報数	196	120	45
掲載回数	10	24	9（2009年7月より開始）

表1-21 広報依頼をマスコミに仲介した件数（継続）

	毎日新聞	サンケイリビング	読売新聞	合計
マスコミ掲載情報数	135	39	144	318
マスコミ掲載回数	45	11	48	54

## （4）広報依頼に関する相談（マスコミ仲介やチラシ掲示）への対応

「広報依頼（電話などで受理）」の件数は、ボランティアに係る相談を含め、2009年度対応した市民活動全般についての依頼である。また、「広報依頼（郵送で受け付け）」の内容は、講座やイベントのチラシやポスターの掲示依頼、ボランティア募集依頼が多い。団体紹介パンフレットや貸会議室情報、助成金情報なども寄せられる。

表1-22 協会への広報依頼受付件数

	広報依頼（電話などで受理）	広報依頼（郵送で受け付け）
2009年度	32	4,696
2008年度	44	4,445
2007年度	35	4,311

### 3. ボランティアコーディネーション向上に関する取り組み

#### ①. 「コーディネーション事業戦略推進委員会」の開催

目的：ボランティアコーディネーションにおける専門性向上のため検討を進めた。

実績：2009年4月27日、5月18日、6月26日、8月11日、9月2日・18日、10月16日、11月24日、12月17日、2010年2月1日、2月24日、3月8日 計12回開催。

委員：筒井のり子（委員長）、石井祐理子、岩本裕子、海士美雪、垂井加寿恵、南多恵子、早瀬 昇、水谷 綾、永井美佳、白井恭子、奈良雅美、梅田純平

#### ②. 「勤労者のボランティア活動促進事業（ボランティアスタイル）」の開催（大阪府共同募金会助成事業）

目的：働きざかりの市民が市民活動に参加しやすい仕組みをつくり、活動への参加を通じて社会参加の促進を目指す。“週末3時間でできるボランティア活動”をコンセプトに、趣旨に賛同するパートナー団体とともにボランティアプログラムの開発を行った。（勤労者のボランティア活動推進チーム）

実績：＜チーム会議＞ 6月19日、9月25日、11月17日、3月15日 計4回開催。

＜チームリーダー説明会＞ 11月10日・12日 計2回開催。

＜プログラム企画会議＞ 12月25日、1月15日、2月26日、3月23日 計4回開催。

＜お試しプログラム実施＞ パートナー団体5団体と、“週末3時間でできるボランティア活動”を7種類開発し、パイロット的に9プログラムを実施した（表1-13参照）。

委員：＜チーム会議＞ 今村澄子\*、筒井のり子、西 誠\*、延岡敏也\*、早瀬 昇、永井美佳\*、岡村こず恵\*、白井恭子\*、奈良雅美\*（\*印はプログラム企画会議メンバーを兼ねる）

＜プログラム企画会議＞ 青木奈緒、杉浦 健、武 直樹、谷水美香、福島義弘、堀口良一、梅田純平、江渕桂子、影浦弘司、金治 宏、水谷 綾

#### ③. 「NPOのボランティア推進事業」の検討

目的：NPOでのボランティア参加状況、課題などを知り、活動を活発化するための事業を検討。協会のボランティアの参加推進を中心に取り組んだ。

実績：アソシエーター新人研修。ボランティアマネジメントについてNPOへのヒアリングを実施した。

委員：今村澄子、岡本友二、北埜智久、谷水美香、成田昭博、岡村こず恵、白井恭子

#### ④. 「関西地区大学ボランティアセンター連絡協議会」の開催

目的：大学ボランティアセンターの専門性の確立および認知向上を目指し、事例検討や情報交換を行った。

開催日：2009年6月18日、7月23日、10月2日、12月8日、2010年2月18日 計5回開催。

参加者：関西大学、京都産業大学、神戸学院大学、聖トマス大学、奈良教育大学、桃山学院大学、龍谷大学、立命館大学、ユースビジョン

#### ⑤. 日本ボランティアコーディネーター協会（JVCA）への協力

副代表理事（早瀬）、運営委員2人（早瀬・白井）を派遣。「ボランティアコーディネーション力3級検定」の実施にも直前研修の共催などにより積極的に協力した。

#### ⑥. スペシャルオリンピックス日本への協力

2010年11月5日～7日に開催される「2010年第5回スペシャルオリンピックス日本 夏季ナショナルゲーム・大阪」のボランティアコーディネーションで関わる実行委員（梅田）として、2009年11月22日に開催されたプレ大会、2010年3月5日開催された採火式に協力した。